

## 日中の相互理解をより深めるため

# 第二回 日本人の中国語作文コンクール 募集要項

戦後60周年に当たる2005年、負の遺産を乗り越え、新たな日中関係を構築すべく、私たちは日本僑報社の執筆者を中心に、日中交流研究所（段躍中所長）を設立し、日中両国の民間交流を促進するため、また日本人の中国理解を深めるため、研究所設立記念の一環として、第一回「日本人の中国語作文コンクール」を実施しました。多くの方々のご協力により、243本の作品が寄せられまして、その中からもっとも優れた36本を受賞作品に選ばれました。今年も昨年に引き続き開催することとなりました。多くの方々のご参加・ご協力・ご支援を心から期待しています。

【応募資格＝中国語ができるすべての日本人】

最優秀賞(中国大使賞) 受賞者に「北京往復航空券」

【テーマ】(下記の内、いずれか一つのテーマを選んでください。)

### ①「中国語と私」

中国語学習について、「きっかけ」、「今の気持ち」、「困ること」、「中国語の難しさ」、「中国人教師や中国人との出会い」、「将来の夢」、など。

### ②「日中相互理解を深めるには、どうしたらいいか」

「日中相互理解を深めるためのいろいろな「提案」。中国政府や中国人、中国企業などについて、「言いたいこと」、「好き・嫌いなどところ」。日本と日本人の立場や生活などについて「知ってもらいたいこと」。

★【体裁・字数】 中国語簡体字・手書き・400字詰原稿用紙4枚まで。別紙に、氏名、住所、電話番号、メールアドレス(お持ちの場合)、所属(学校名・会社名等)、および略歴(受賞作品が単行本に掲載される場合に使用します)を記してください。※応募作品は返却いたしません、ご了承ください。

★【締め切り日】 2006年8月31日(木)必着。10月31日(火)必着

★【作文の送り先】 171-0021 東京都豊島区西池袋3-17-15 日本僑報社内 日中交流研究所

★【審査の方法】 審査は、学生の部と社会人の部に分けて行い、「中国語の語彙・文章＝50点」、「内容＝50点」を基準とした点数制とします。第一次審査にて在日中国人記者・編集者の審査員が入賞作文を選定し、さらにこの入賞作文の中から、学者を中心とした最終審査委員が特別賞などを決定します。

【賞】(学生の部と社会人の部にそれぞれ)

最優秀賞(中国大使賞) 各1人(賞状+北京または上海往復航空券)  
一等賞 各2人(賞状+4万円相当の賞品)  
二等賞 各5人(賞状+2万円相当の賞品)  
三等賞 各10人(賞状+1万円相当の賞品)

※入賞された作文は日本僑報社より単行本として刊行、中国国内の新聞に掲載する予定です。  
(その場合、出版権は日本僑報社に帰すことをご確認ください)

★第一回最終審査委員★

朱建栄・東洋学園大学教授  
莫邦富・ジャーナリスト  
王曙光・拓殖大学教授  
王敏・法政大学教授  
趙軍・千葉商科大学教授  
裴軍・中国青年報東京支局長  
段躍中・日中交流研究所所長  
張景子・日本僑報社社長

【発表と表彰式】

応募者に書面でお知らせすると同時に、日本僑報電子週刊と「日本僑報」などに掲載します。表彰式は別途知らせします。

【主催】 日中交流研究所・段躍中所長(日本僑報社編集長)

【後援】 中国大使館、中国青年報、北京青年報、人民網、(財)日中友好会館、日中文化交流協会、日中友好議員連盟、(社)日中友好協会、(社)日中協会、日本国際貿易促進協会、(財)日中経済協会、日本華人漢語教師協会、福井華僑華人聯誼会、日本中国語検定協会、日本中国友好協会、日本ビジネス中国語学会、日中文化交流センター

【協賛】(2005年の実績) 全日本空輸株式会社、カシオ計算機株式会社

劉徳有先生「日本人の中国語作文コンクール」顧問に就任

この度、劉徳有先生が日本僑報社・日中交流研究所が主催する「日本人の中国語作文コンクール」の顧問にご就任くださいましたことをご報告いたします。 詳細 <http://duan.jp/cn/komon.htm>